

3年ぶりの15期会、金沢で

15期 松林 知一

3年ぶりに開催することができた15期会のご報告です。今秋、金沢に13人が集まり、オンラインではない対面の懇親会で「出会い50年」を祝い旧交を温めました。

●開催日 2022年10月9日(日)～10日(祝)

●開催地 金沢市

●日程

【10/9】金沢駅(集合)→大乘寺丘陵公園(散策)→前田家墓所(見学)→金沢湯涌江戸村(見学)→銭がめ(宿泊・懇親会)

【10/10】銭がめ(出発)→石川県立図書館ビブリオバウム(見学・休憩)→国立工芸館(鑑賞)→坂尻別邸材木荘(昼食)→鼠多門・玉泉院丸庭園(見学)→金沢駅(解散)

●参加者 上馬康生・敏栄、宇野潔・篤子、奥名正啓、坂尻忠秀・知恵、鈴木良紀、祖父江直久、佐野哲夫、舟田節子、松下重人、松林知一

15期は年1回、同期が直接顔を合わせる一泊二日の懇親会を30年以上、毎年欠かさず持ち回りで開いていました。それがこの2年間、コロナ禍で開催できなかつたのです。

当初は2020年11月に開催の予定でした。2020年は、われわれ15期が初めて出会って(金沢大学に入学してワンゲルに入って)ちょうど50年という節目の年でした。前年の2019年8月、三重県桑名市で開かれた15期会では当然、次回は原点の金沢で盛大に50周年を祝おう、という話になったのですが…



(写真=会場の銭がめ前で。50年前、芝原からブナオ峠へ歩いた長いロードの途中にある)

せっかく予約した宿をキャンセルすること2回。この2年間の空白は、われわれ全員が60歳代から70歳代になったという時間の経過だけではなく、15期の中心的存在であった主将の間所新一を失うという深い悲しみに見舞われました。もはや「今年がだめなら来年に延期しよう」などとは簡単に言えず、一日一日を大切に過ごさなければならない、という現実を痛感させられたコロナ禍だったので。

3年ぶりの15期会は、コロナの第7波がいまだ収束を見通せない中で開催案内を送るというタイミングになったこともあり、メンバーからは「家族に反対された」とか「コロナ感染の後遺症



で体調が戻らない」など欠席の連絡が相次ぎ、例年に比べると参加者が少なかったのは残念でした。

今回の企画の目玉は、今年7月にオープンした新石川県立図書館=写真・上=と、東京から金沢に移転してきた国立工芸館の見学でした。どちらも2020年には開館しておらず、2年延期になったおかげで行くことができました。

特に新しい県立図書館は旧工学部跡地に整備されたもので、跡地が長い間廃墟となっていたことに胸を痛めていた工学部出身のメンバーにとっては感慨もひとしおのようでした。昔の工学部をしのぶ遺構はまったく残っていませんが、敷地の境界に植えられた何本かの桜の古木に、「この木には見覚えがある」との声も上がっていました。

3年ぶりの再会というのに、幹事長を務めた松林の日頃の行いが悪かったせいで2日間とも天気は雨。二日目の昼食は国立工芸館前の芝生広場で弁当を広げる予定でしたが急きょ、材木町の坂尻別邸に変更することになりました。これまでも坂尻別邸にはずいぶんお世話になっており、金沢での50周年記念15期会にふさわしいフィナーレになったと勝手に思っています。

次回は来年、宇野が幹事を務め兵庫県の淡路島で開催することになりました。どうか来年はメンバー全員がそろいますように。